

子供に人気の優しいシスターが、普段おさえているほとぼしる性欲を処理するため、裏のエロ顔で営む淫語ささやき耳舐めシコシコによる、脳がとろける丹念な男根ご奉仕

◆第1章（夫である神に謝罪しながら教え子のイケメンパパを思い浮かべて浮気オホ声オナニー！もてあます性欲処理の実態！）

「はあい、今日の英語教室はここまで」

「また明日、この続きからやりましょう」

「せいーゆーあげいん」

「今日も、皆さんに神のご加護がありますように……」

「ふふ……」

「……気を付けて、帰るのよー」

「……はあい、さよならー」

「……はあい、また明日あ」

……

……

……

「ん？ なあに？」

「えっ？ 私が？ 結婚しないのって……？」

「あらあら、うふふ……」

「そうねえ……」

「実は、私はもう、結婚、してるのよ」

「……ん〜……神様と結婚してるの」

「ちょっと難しいかな？」

「でも、いずれわかる……えっ？」

「アナタのパパが？ 私の事を、そう言ってたの？」

「あら……そう……」

「そんなことを……」

「(はあ……はあ……はあ)」

「あ……うん……また明日ね……」

「気を付けるのよ……」

「(はあ……はあ……はあ)」

……

……

……

『ガチャ』

『ボタン』

「(はあ……はあ……はあ)」

『しゅる……しゅ……』

「(はあ……はあ……)」

「んっ……んっ……」

「あっ……んっ……」

「おっ……おっ……」

「おっ、おっ、おっ、おっ……おっ……」

「(はあ……はあ……はあ……はあ……)」

「そういえば……あの子のパパっ……バツイチっ……だったわねっ……」

「(はあ……はあ……はあ……はあ……)」

「私のことっ……んっ……そういう目で、見てたのっ……おっ……」

「あっ……あっ……」

「あゝ、ああ、あゝ……きぼちいゝ、いゝ……」

「おまんごっ……きぼちいゝ、いゝ……」

「おっ……おっ……おっ……おっ……」

「パパのくせに……あゝの優しい目つきでっ……私の事みて……」

「私の服の中身を想像してたのねっ……」

「シコいって思っ……想像してたのっ……」

「子供の相談しながらっ……本当は、私と交わることを想像して勃起してたのっ、おっ、ほおっ」

「やめられないい……」

「こればかりは……やめられないい……」

「これやめたら、死んじやうう……」

「(ふーっ……ふーっ……ふーっ……ふーっ……ふーっ……)」

「お……？ お……お……お……」

「お……お……お……お……お……お……お……お……」

「お……お……お……お……」

「きたっ……きたきたっ……」

「すごいくるっ……これ……アクメ……」

「めっちゃいいアグメ……くるっ……」

「くるっ……くるくるっ……」

「アクメ……浮気アグメ……っっ(ほ……お……お……」

「(こ)っお……」

「お……」

「ん……ん……」

「(……)」

「(……)」

「(……)」

「あー……気持ち良かった……」

「あー……後でちゃんと、告解しとかないと……」

「あゝあゝ……」

「……ダメ……まだ、動けないわあ……」

◆第2章（匿名アダルトチャンネルで性欲処理オナニー配信！　これは浮気になりません）

「あゝ……もう……」

「なによ、もお……告解してんのに、なんで説教くらわないといけないのよ……」

「あのく（そ）……おうんこおじいさまに、私の夫の何がわかるってのよ……」

「私の夫は、もっと寛大に許してくれますわよ……」

「あゝ……」

「むしろくしゃしますわ……」

「あゝ……も……」

「あゝ……」

「やあああ……駄目これ……」

「……久々に、あれ、やりますかあ……」

……

……

……

「はああい♡」

「こんばんオナニー♡」

「w w　あははっ……そうね、流行らないですねー、これw w」

「あ、ナイスパー……ありがとう」

「スパチャは最後にまとめて読めますねえ」

「あ、またっ……ナイスパー、ありがとう」

「ええー……？　そうそうー……そうなんですよお」

「まあた上司に怒られちゃってえ……」

「いや、仕事そのものことじゃなくてえ……」

「プライベートの事……」

「そうそう、本来、そんなの注意される筋合いないやつなんですっ！」

「そうなの……」

「マジ、ほんとヤバ谷えん……」

「え？」

「パワハラで……訴えれ、ば……」

「(ふっ) ww」

「それいいかもーww」

「絶対ビビるよね、それされたらあww」

「wwww」

「wwwwww、ww」

「ヤバっww　ツボったわww」

「あゝww」

「……んー？♡」

「じゃあ、そろそろ、いつものいっとく？」

「お耳のチンポマッサージ♡」

「はあい」

「じゃあ、まず、こっちの、お耳からあ……」

「やあやあやあやあ……」

「いっくよお……」

「チンポっ……チンポっ……チンポ……チンポ……」

「次は、こっちのお耳い」

「やあやあやあやあ……」

「いっくよお……」

「チンポ……チンポ……チンポ……チンポ……」

「ふふ……」

「お耳、ほぐれた？♡」

「んふふ……えええ？……見たい？」

「もおお……みんな揃ってスケベえさんですねえ♡」

「そんなにチンポきもちよくなりたいたんですかあ？」

「ふふ……」

「まあ、そうですよねえ♡」

「精子タンクに溜まったお精子をピュッピュすると、きもちいいですねえ♡」

「ふふ……」

「はあい♡わかりましたあ……」

「じゃあ……」

『しゅるしゅる……しゅる……』

『パサッ』

「ふふ♡」

「はあい、おっぱいでえす♡」

「わっ、赤スパ♡ ありがとうー♡ あとで読むからあ♡」

「ふふっ……」

「あ、ごめんねえ……顔はちょっとZQなお……」

「んっ……仕事柄なんだけどねえ」

「怒られちゃうからあ……」

「ごめんねえ……」

「ん……」

「でも、その代わり、エッチなおナニー見せてあげるからあ♡」

「いっぱい、シコってくださいねえ」

「ふふ♡」

「一緒に、気持ち良おおく、なろお♡」

「(はあ……はあ……はあ……はあ……はあ……)」

「あゝ……たくさんの殿方が私を見てセンズリこきこきしてると思ったら、興奮してきちゃった♡」

「(はあ……はあ……はあ……はあ……はあ……)」

「じゃあ……するねえ」

「オナニー……」

「ふふ♡」

「ん……」

「んゝ……あゝ……」

「あ……あ……あ……」

「(はっ……はっ……はっ……はっ……はっ……はっ……)」

「あゝあゝあゝあゝあゝあゝ……」

「あゝ……あゝ……あゝ……あゝ……あゝ……あゝ……」

「つつっ効つく、うゝ……」

「やっば……見られながらの、オナニー……すゝきいゝ……」

「あゝっあっあゝっあゝっあゝっあゝっあゝっ……」

「はあ、あゝああんっ♡」

「……ふふ♡」

「みなさん、どうでした？ 逝けましたあ？♡」

「えええ？♡ ホントですかあ？♡」

「おちんぼミルク、でたあ？♡」

「ちょｗｗ デシリットルってｗｗ すぎ、すぎｗｗ」

「ふふ……♡」

「あ、スパチャありがとねー……後で全部読むからあ……」

「……んー？♡」

「や、まだまだ……」

「軽イキしただけだから……」

「これから、これから……」

「ふふ……」

「ちょっと待って、今、見せるから……」

「今日のメインはあ……」

『ガサっ』

「これえっ♡」

「ね、すごいでしょ？これっ……」

「デイルドっ！」

「マジ、一目ぼれして買ったのお……」

「マジで黒人のチンポ型とって作ってたって……」

「やばいでしょ、これえ……」

「うっは……w w 改めて、まちまち見ると……エッグ……」

「はっはw w w w」

「えっぐいなあ……w」

「これが、私のアソコに入るんですかあ……今からあ……」

「ん……今日のメインは、これでフィニッシュきめまあす」

「ふふ♡」

「じゃ、軽イキの余韻が残ってるうちに、そろそろいきますかあ」

「ふふ♡……♡」

「いきまあす♡」

「んおっ!？」

「おっおっっっほっ!？」

「っっ……こっ……れっ……やっ、ば……」

「(こ)っお、おっお、れ……わ、っ……」

「(ほ)っほっほっほっほっほっ……(……)」

「カリだった……や、っぱ……」

「すごっ……カリっ……これっ……」

「おっっほ、おっ、おっ、おっ、おっ……」

「ぜん、ぶっ……はいっ、た、あ、あ……」

「ふお、お、おっ……」

「お腹までっ……響くっ……っ……こえっ……」

「(はっはっはっはっはっはっ)」

「出し入えしゅうよお」

『じゅぼ、じゅぼ……』

「あゝあゝあゝあゝ……」

「おまゝん、ごゝぎぼぢい、いいいい……」

「ほんっと……ぎぼぢい、いいいい……」

「あゝっ……あゝっ……あゝっ……あゝっ……」

「おちんぼだいしゅき、いいいい……」

「あゝあゝあゝあゝ……」

「おなにゝ、だいしゅき……ぎぼぢい、か(ら)あ……」

「あゝうゝっ……あゝうゝっ……あゝうゝっ……あゝうゝっ……」

「あゝあゝっ……あゝあゝっ……あゝあゝっ……あゝあゝっ……あゝあゝっ……」

「黒人っ……チンポっ……デカマラっ……ぎぼぢい、いいい……黒人、デカマラっ……」

「うつ~~~~~うつ」

「あゝあゝあへえ、え.....」

「へへ、あゝあゝ.....」

「しゅ、ごお、お.....い.....い.....」

「しゅぐつ.....いっちやう.....」

「あへ、え、え.....w」

「でう.....でぢやう.....ひあゝあ.....」

『ちよろつ.....』

『ちよろちよろ.....』

『じょおおおおっ.....』

『じょほほほっほほほほ.....』

『じょおおおおっ.....』

『ちよろちよろ.....』

『ちよろつ.....』

「あゝあゝ.....」

「おひっこ.....」

「でひゃっ(た)あ.....ww♡」

「.....ごっ.....かゝい.....しあきや.....」

「へあ、あ、あ……」

◆第3章【ASMR 淫語】（自分のおっぱいで勃起しちゃった子のオナニーのお手伝いをしてあげる優しいシスター！ 民衆へのご奉仕は浮気にはあたりません）

「はあい、今日の英語教室はここまで」

「また明日、この続きからやりましょう」

「せーゆーあげいん」

「今日も、皆さんに神のご加護がありますように……」

「……気を付けて、帰るのよー」

「……はあい、さよならー」

「……はあい、また明日あ」

……

……

……

「あら？ どうしたの？ 帰らないの？」

「え？」

「おちんちんが……大きくなっちゃって、痛いの？」

「……あらあら……」

「ホントだ……」

「テント張っちゃってるねえ」

「ん？」

「そっか……いつもは、待ってたら小さくなるのに、今日はならないんだ……」

「ん……」

「でも……どうしてかな？」

「なんでだと思う？」

「わからないこと、ないよねえ？」

「どうして、おちんちんが、こんなことになっちゃってるか……理由は、わかるでしょ？」

「ん？」

「もしかして……」

「女の人の裸の写真が載ってるような本とか……隠れて見たりしたかな？」

「正直に言ってくれないと……お姉さん、助けてあげられないなあ……」

「お姉さんも、助けるために全力をつくすから……」

「その代わり……正直に話すって、約束してくれる？」

「ん……ありがと」

「うん……」

「え？」

「私のこと……考えてたの？」

「あらあら……」

「そしたら、おちんちんが、こんなふうになっちゃったんだ……？」

「ふーん……」

「そっかぁ……そうなんだぁ……」

「うふふ……」

「で？ もっと細かく、説明してくれる？」

「私の……どんなこと、考えてたの？」

「ええ？」

「あれえ？ あれあれえ？」

「おかしいなぁ……正直に話してくれるって約束したのに……」

「嘘は……お姉さん、悲しいなぁ……」

「んー……」

「じゃあ助けてあげられないかなぁ……」

「ねえ？ だって助けるためには、正確な情報が必要なんだから……」

「じゃあ、このことはママに伝えてなんとかしてもらおうといいわね」

「私からママにお電話で連絡してあげるからぁ……」

「んん？」

「駄目なの？」

「えー？ どうしてかなぁ？」

「何がダメなの？」

「だって、しょうがないじゃない」

「正直に話してくれないから、助けてあげられないんだし……」

「ふふ……」

「わかった」

「じゃあ、正直に話してくれる？」

「そっか……」

「うん」

「私の……おっぱいのこと、考えてたのね」

「今日、揺れてたんだ……」

「そっか」

「揺れてるのをみたら、頭から離れなくなっちゃったんだね」

「そう……」

「ん……よく言えたね……」

「偉かったわ……」

「恥ずかしかったよねえ……」

「ん……いいこ、いいこ……」

「つらかったねえ……」

「ん……おいで……」

「ぎゅううううってしてあげる……」

『ぎゅううううう』

「偉かったご褒美よ……♡」

「ね、ほら……もつと……ぎゅううううう♡」

「ふふ……そうよねえ」

「思春期の男の子の前で、おっぱい揺らしたら……ダメよねえ」

「もっと女の人のほうが、気を付けないとねえ……♡」

「ん？」

「どーしたのかな？♡」

「……ふふ……すつごく、はあはあ言ってるねえ♡」

「ん……」

「もしかしてえ……おちんちんが、もっと痛くなっちゃった……？」

「そっか……」

「ん……大丈夫よ」

「お姉さん、ちゃんと治療の方法を知ってるからね」

「まずは、痛くないように、おズボンとおパンツから、おちんちんを外にだしてあげよっか」

「自分で、できる？」

「ん……」

「偉いね」

『しゅる、しゅる……』

『パサッ』

「あらあら、まあまあ……」

「かわいい皮かむりチンポ♡」

「一生懸命自己主張してるけど、まだ自分が保護されていることに気づいてないのね……」

「ふふ……大丈夫よ」

「みんな、同じよ」

「そのうち一皮むけて、保護されなくても生きられるようになったときには……」

「どれだけ今まで保護されてきたのかわかるの……」

「でも、スースーしてヒリヒリするのは最初だけ」

「それが無くなって、当たり前になってくると同時に……」

「今まで味わえなかった喜びも、自己責任でつかめるようになるの」

「それが、子供が大人になるということなの♡」

「……まだ難しいかしら？」

「ふふふ♡」

「とはいえ……」

「そうね」

「一皮むけてない、この段階での自己主張もバカにできないわね」

「使いようによっては、攻撃力だけなら大人と同じ……いえ、場合によってはそれ以上に
なり得るんだもの」

「大人になりかけていうのは怖いものよ」

「大人はわかつちゃくれないなんて言って、非行に走って、バイクにのったり、窓ガラスを
わったり……」

「もしかしたら、ぴっちりぴったり密着して保護されたままでも、女の子を妊娠させちゃう
かもしれないわ……」

「まああ、大変……!」

「それは、一大事だわ!」

「私がシスターとして、この迷える子羊を導いてあげなければなりませんわ」

「ふふ♡」

「と、いうわけで……」

「はい、じゃあ、まず、私と一緒に、子羊……じゃなくって、おちんちんを握りましょうね」

「そう、治療するのよ」

「大丈夫。難しく考えないで……簡単な治療法がちゃんとあるから……」

「大丈夫よ。上から手を添えてフォローしてあげるから、自分でやってみるの」

「ん……最初は、わからないのは、当たり前……」

「ゆっくりでいいから……」

「私が全部やってあげるのは簡単だけど……」

「それはダメなの」

「飢えて苦しんでる村人に、神は魚を与えません」

「その代わり、魚を捕る方法を教えるわ」

「いつときだけ助けてあげても意味はないの……」

「自分で自分を助けられるように導くのも、また大事なことのよ」

「ふふ♡」

「はい、じゃあ、手を上下に、うごかしてみましよう」

「ん……」

「お姉さんと一緒に、共同作業よ」

「上に……下に……そう……」

「皮をつかって滑るように、上下に……」

「ん……そう」

「上に、下に……」

「上に、下に……」

「おいっちに……おいっちに……」

「おいっちに……おいっちに……」

「そうよ、上手じゃない……」

「はじめてとは思えないわ……」

「もしかしたら、才能があるのかも」

「おいっちに……おいっちに……」

「おいっちに……おいっちに……」

「ふふ……」

「背中と腕に、お姉さんのおっぱいがあたってるの、感じる……？」

「感じるよねえ……」

「じゃあ、背中と、おちんちんだけに神経を集中してみよっか……」

「はい、集中うう……」

『ふうううううううう』

「あああん♡ かわいいい声えっ♡」

「ふふ……そうだねえ……お耳も、きもちいいもんねえ……」

「じゃあ、お耳と、おちんちんと、背中だけに集中してみよっか」

「そう……それで……」

「おいっちに……おいっちに……」

「しいコしいコ……しいコしいコ……」

「ふふ……」

「そうやって上下に、おちんちんを擦ることを……シコシコっていうのよ」

「しいこしいこ……しいこしいこ……」

「しいこしいこ……しいこしいこ……」

「男の人はね、女の人にシコシコって言われるのが好きなの……」

「女の人にシコシコって言われると、せつなくなっちゃうのよ♡」☆

「ふふ……」

「しいこしいこ……しいこしいこ……」

「しーこしーこ……しーこしーこ……」

「だんだん気持ち良くなってきたでしょ？」

「せつなくて、やるせない気持ちだが、シコシコすると、だいぶやわらぐねえ……♡」

「ふふ……じゃあ、おっぱいも、もっと押し付けて……上下にうごかしてあげるね……♡」

「上下に、おっぱいを動かしながら……」

「耳元で、シコシコって言ってあげる♡」

「お姉さんが、お手伝いできるのは、そこまで……」

「あとは、自分で頑張るの……」

「頑張れるよね？　だって、男の子だもん……」

「ほら……」

「上下に……」

「皮の上から……上に……下に……」

「シコシこお……しこしこお……しこしこお……しこしこお……」

「しこしこお……しこしこお……しこしこお……しこしこお……しこしこお……」

「しいこしいこ……しいこしいこ……」

「しいこしいこ……しいこしいこ……」

「ん？♡」

「おしっこがそうなの？」

「ふふ♡」

「大丈夫よ、それはおしっこじゃないから、そのまましていいわ」

「そのまま、排尿感に従って、おもうままに、おちんちんから出しちゃいなさい」

「大丈夫よ、もし本当におしっこだとしても、後で掃除すればいいんだから」

「お姉さんを信じて……」

「そう……信じていいのよ……」

「信じて……」

「私を、信じて……」

「シコシこお……しこしこお……しこしこお……しこしこお……」

「しこしこお……しこしこお……しこしこお……しこしこお……しこしこお……」

「ふふふ♡」

「必死でこいちゃって、かあわいい♡」

「しいこしいこ……しいこしいこ……」

「あっ……♡」

「あんっ♡」

「すっごい量♡ やあん♡ すごおい……さすが、初物だわっ♡」

「いいわぁ……初物っ……♡」

「精子タンクで我慢の限界まで発酵させた芳醇な香り……」

「間違いなく初物ね……♡」

「ふふ……」

「大丈夫？ ピクピク終わった？」

「ね？ 心も体も、おかしくなっちゃったの、良くなったでしょ？」

「これからも、同じ症状になることはあると思うけど、そういうときは、同じように治療すれば大丈夫だからね」

「え？ この白いおしっこ？」

「んー……これはおしっこじゃなくて、精液っていうのよ」

「ザーメンともいうわね」

「おしっこではないの」

「赤ちゃんのモトになるもので……」

「ふふ……まあ、お話する前に掃除だけしちやいましょうか」

「タンパク質は、早めに掃除しないと、あとあと掃除が大変なのよ」

「それも覚えておくといいわね」

「これから長い事、使う知識だからね」

「ふふ……今日から始まって、これから、ずーっと長い事、オチンチンで楽しんでいくんだから……」

「ふふ♡」

◆第4章【ASMR耳舐め】（風俗での奉仕活動！ 教会の活動資金のためなら浮気にはなりません）

「はあい、今日の英語教室はここまで」

「また明日、この続きからやりましょう」

「せいーゆーあげいん」

「今日も、皆さんに神のご加護がありますように……」

「……気を付けて、帰るのよー」

「……はあい、さよならー」

「……はあい、また明日あ」

「……」

「（ふう）」

「さて……と……」

「ちょっと長引いちゃったわ……」

「急がないと……」

……

……

……

『ガチャ』

『ボタン』

「あ、おつかれさまでーす」

「え？あ……ごめんなさい、遅れてました？ すいませーん……」

「時計が遅れてるのかなあ？」

「え！？ 指名！？ もう、待ってるの？ 180分！？ え、誰？」

「初めての人！？ 写真指名で？」

「うわっ……ガツカリしなきゃいいけどなあ……」

「あ、はあい、ごめんなさい……いそぎます」

……

……

……

『ぴんぽーん』

『ガチャ』

「はじめましてえ、『オッパイレーツオブカリ首いゃん』の、メリッサです」

「えっと……いい、ですか？」

「あ、いや……チェンジとか……」

「あ、ホント？ やぁん、嬉しいい♡」

「おじやまします……♡」

「え？ あ、ハーフじゃないですよ」

「両親ともアメリカ人なんで……」

「あ、日本語は、人生の半分以上は日本にいて……それで……はい」

「あ……」

「はあい♡……うん、180分なので、4万2千円ですねえ」

「ふふ……ごめんねえ、うち、ちょっと高いよねえ？」

「はい、じゃあ8千円のおつりですわね」

「ん……」

「はい」

「ふふ……♡」

「えー……？　そうなの？　バイトで金ためて来てくれたんだあ……」

「嬉しいなあ……」

「学生さんですか？」

「そっかあ……」

「じゃあ、今日はあ……いっぱいチンポ気持ち良くなってえ……」

「また明日から頑張れるように、精力をつけて帰って貰わないといけませんね……♡」

「ん……じゃあ……シャワー、いきましょ♡」

……

……

……

……

「おまたせえ」

「ごめんねえ」

「待ちくたびれましたよねえ？」

「ふふ♡」

「私も、おふとん、入っていい？♡」

『ガサ、ゴソっ……』

「ふふ♡」

「入っちゃった♡」

「……あったかあい♡」

「あ、もしかして、ちょっとクーラー強かったかな？」

「少し、弱くする？」

「……そう？」

「ふふ……」

「足、細いねえ……」

「いいなあ……」

「私も、もうちょっと細かったらいいのになあ……」

「そう？」

「ありがとう♡」

「ふふ……」

『ガサ、ゴソ』

「あ……」

「あれえ……？」

「なんかあ……」

「もしかして……」

「……おっきくなっちゃってる？♡」

「ふふ♡」

「やだあ……♡」

「すごいことになっちゃってるよぉ……♡」

「ねええ……」

「ふふ……」

「……どうしよつかあ……これえ♡」

「ん♡♡」

「ふふ、どうしたい？」

「あれ？ なぁに？ 緊張してるの？」

「……そっかぁ……」

「こういうところ、初めてなんだ……？」

「ん……」

「わかった……」

「じゃあ今日は、お姉さんの、特別おまかせコースでびゅっぴゅさせてあげる」

「大丈夫……ちゃんとしんぽきもちいいきもちいいにして、天国、逝かせてあげるから……」

『ガサ、ゴソ』

「れろっ……れろっ……」

「ちゅぴ」

「ふふっ……動かないのっ」

「お耳は、とっても気持ちイイのよ」

『ふうふうふうふう』

「じっとしてて……」

『ちゅぴっ……れろっ……』

「もう片方もっ……」

『ちゅぶ……ちゅぶ……』

「ねっ……」

「お耳だけで逝ける人もいるのよ……」

「耳イキすると最高なんだから……」

「ふふっ……」

「大丈夫……」

「今日はちゃんとおチンポ、しごいて逝かせてあげるから……」

『がさ、ガサ』

「ローション、たっぷりつけてあげるね」

『じゅぽっ……』

『ぽぷっ』

「ふふっ……」

「とろっとろだねっ♡」

「ローションも、初めてなの？」

「そっか……」

「ローションでとろっとろにするとね」

「こうやって……ふふ♡♡」

「ムキムキして亀頭が丸出しになった状態でも……」

「……手の平で包むように、おおざっぱに握って、ごしごし、おもいつきりシコれるんだよ……♡」

「ふふ……」

「きもちいいでしょお……♡」

『ふうふううううつつ』

「ねええ……そうだねえ……気持ちいいよねえ……」

「おおぎっぱに握ってごしごしシコると、きもちいいとこ全部あたるでしょ？♡」

「ふふ……」

『れろれろ……ぺろ』

「ふふっ……喘いじゃって……かあわいい……」

「溜まつてるザーメン……ぜえんぶ、お姉さんがブッコぬいてあげるっ♡」

「あん♡」

「でも、そんなに腰へコしたらめえだよ♡」

「シコりにくいでしょお？♡」

『れろ……ぺろ……』

「もおお……今からそんな情けない喘ぎ声だしててどうするの？♡」

「今日は、精子タンクの中身、空っぽになるまでヌキヌキしまくんだから♡」

「まだまだ先は長いわよ？」

「ふふ……」

「あ……たまたまが自己主張してるわっ」

「精子を出そうとして、せりあがってきてるっ……」

「すごいわっ……」

「一発目……逝くのねっ……」

「いいわっ……お姉さんのおててマンコに、種付けしなさいっ」

『じゅぼ、じゅぼっ……』

「あんっ♡あっつつっ♡」

「でたあっ♡」

「大量お♡」

「ずいぶん溜めこんでたのねえ……もう、黄色くなりかけてるじゃない」

「もしかして、昨日からずっとマスターしないで楽しみにしてたの？」

「ふふ♡ うれしっ♡」

「ん……いいよ、少しグッタリしてて……」

「おてて洗って……お水、持ってきてあげる……」

「ふふ……休んだら二回戦できるかな？」

「ふふふ……回復するまで、普通のマッサージしてあげるね……」

「ふふ♡」

「私、普通のマッサージも得意なんだよお……♡」

◆第5章（教え子のイケメンパパに告白され不倫オホ声おセッセ！ アナタごめんなさ
い！ 愚かなネトラレ妻の私をお許してください）

「はあい、今日の英語教室はここまで」

「また明日、この続きからやりましょう」

「せいーゆーあげいん」

「今日も、皆さんに神のご加護がありますように……」

「……気を付けて、帰るのよー」

「……はあい、さよならー」

「……はあい、また明日あ」

……

……

……

「……あら？ どうされました？」

「お子様ならもう帰られたと思いますが……」

「えっ!？」

「そんな……」

「そんなこと……いきなり言われまして……」

「い、いや、いきなりじゃなければいいというわけではなく……」

「私は、神と結婚している身ですから……」

「い、いけませんっ……いけませんわ……」

「こまりますっ」

「ここは神の御前ですよっ……」

「あああっ……」

「駄目っ……」

「んっ……」

『ちゅっ……』

『ちゅぶっ……』

『ちゅばっ……ちゅっ……』

「あっ……は……」

「（はぁ……はぁ……はぁ……はぁ……）」

「なんてこと……」

「こんなこと……いけませんわ……」

「夫のいる身でありながら接吻だなんて……」

「え？」

「ま、まぁ……確かに、告解をすれば、罪は許されますが……」

「そ、それは……」

「まぁ……」

「理屈の上ではそうなりますけど……」

「え？」

「ま、まあ……確かに、夫がいても、彼氏がいるという主婦は多いとは聞きますよね……」

「い、いや……とはいえ、さすがに……そんな……不倫じゃないですか……」

「あっ……ちょっ……やっ……」

「ああああん♡」

「な、なんて、強引な殿方っ……♡」

「あっ……あっ……あっ……あっ……」

「そ、そんな……」

「そんなに乳房を揉んではいけませんわっ……!」

「乳房はっ……赤子に授乳をするためのものっ……」

「そんなっ……男性の性欲を満たす道具として利用するなんてっ……」

「え……」

「た、確かにっ……確かに、まずは姦淫をしなければ、子供は生まれませんが……」

「そ、そうなのかしら……」

「これが、本来の正しい乳房の使い方っ……?」

「あっ……は、あっんっ!」

「そ、そうなのかしらっ……」

「わ、わたくし、なんだか、そんな気がしてまいりましたわっ……」

「正しい使い方なら、仕方ありませんわっ……」

「存分に、私の乳房を、性的な満足のために、ご堪能なさってくださいっ……♡」

「あんっ……あっ……あっ……あっ……あんっ……」

「すごいですわっ……」

「乳房を攻めるだけで、こんな……こんなに情熱的な……っんっ……」

「はああああああっん……」

「え？」

「……場所、ですか？」

「場所を、変えるのですか？」

「はあ……」

「え、いえ……」

「別に、どうせ告解するんですから……良いんじゃないですか？」

「今日はもう、誰も来ませんし……」

「……見られてる感じ……ですか？」

「ああ……夫にですか？」

「まあ……確かに……」

「あれ？」

「……ということは、もう告解しているようなものだから逆に大丈夫……ということではないでしょうか？」

「おお……神よ……」

「寛大な御心に感謝いたします」

「これでもう、怒られないように他の教会を探し回って告解をすることなく、性を楽しむことができますわ」

「……」

「……さて」

「では、続きをどうぞ……」

「ええ？」

「大丈夫ですって」

「ここにはもう、今日は誰も来ませんから」

「本当ですってば……」

「ふふ……♡」

「ああ……やあああん♡」

「情熱的♡♡」

「んんん♡♡……素敵♡♡」

「(はあ……はあ……はあ……はあ……はあ……はあ……はあ……)」

「ああああゝああ♡♡！！ 犯される♡♡」

「あっ、あっ……あふっ……あっ……」

「んんんん~~~~っっ……♡入って、く、るううっ……♡」

「あっは、あっん♡」

「おうっふ♡」

「はいっ、った、あっ……」

「あっ……は、あっ♡」

「効っく、う、う……ん♡」

「(はあ……はあ……はあ……はあ……はあ……はあ……)」

「ええ……いらしてっ♡」

「あんっ!-!」

「あんっあんっ、あんっ……あんっ……あんっ……あんっ……ああああんっ♡」

「いいわあっ♡そこっ……そこよっ♡」

「私にっ……種付けっ……したくてっ……必死にっ……腰を振ってっ……っる、んんん、♡
♡」

「ああああ、あ、あ、あ……」

「いいいいっ……きもちい、い、い、い、い、い、い、い……んん、っ」

「素敵よっ……素敵っ……」

「(はっ……はっ……はっ……はっ……はっ……はっ……)」

「あっ……あっ……あっ……あっ……あっ……あっ……あっ……」

「あああああああっ……」

「感じる、う、う……」

「やっぱ、あ、あい、い、いっつ……うっつう……」

「アナタあ……ごめんなさい……」

「寝取られてますわっ……」

「私、アナタの妻なのにつ……今、寝取られてますうっ」

「おっうっ!?!」

「おっ……おっ……お……おっ……っほ、おっおっ!」

「い、今のっ……今の、言葉っ、効くうっ……んっ」

「お、おっお……っほ、っお♡」

「寝取られっ……妻っ……なのっお♡」

「妻なのにつ……種付けされてるっ……さいちゅっ……っ!」

「猿みたいにっ……倫理観より、きもちいいを選んじゃってるのおっ♡」

「ふお、おおっつおっ……きぐううううううっ♡」

「(ふーっ……ふーっ……ふーっ……ふーっ……ふーっ……)」

「お♡」

「きたっ♡」

「おほっ♡」

「おっっ……おっっ……おっっ……おっっ……おっっ……」

「効いたか(ら) あっ……きちゃっ たっっっ、っ……」

「アクメっっ……っっ……くるっっ……うっっ……」

「(ほっ……ほっ……ほっ……ほっ……ほっ……ほっ……)(」

「(え)っ?……イグの?」

「んっっ……いいわよっ……♡」

「じゃあっ……一緒にっ……っ……一緒にっ、逝こっ……♡」

「私がっ……逝つてるときにっ……子宮にっ……だひてっ……♡」

「チンポみるぐっっ♡」

「種付けっ……んっんっっ!」

「逝つてるときにっ……どぴゅっどぴゅっってえ……」

「っっ……っほ、おっっおっっ」

「……アグメっ……っ……っつくるっ……」

「あっっ……あっっ……あっっ……(か)っ……あ」

「ひっ……ぐっ……うっっ、うんんっっ……!」

「っっ……っっ……っっ」

「おっ……(こ)っ……」

「で、てる うっ……」

「アグメで……痙攣 して子宮につ……」

「特濃のっ……お っ お……」

「孕む うっ……妊娠 しちゃうっ……うっほ、お……」

「ふっ……ふっ……ふっ……ふっ……ふっ……」

「(ふー……ふー……ふー……ふー……ふー……)」

「不倫……種付け、セックス……♡」

「しゃっこおお……♡」

◆オマケ章（優しいシスターはやっぱり子供みんなの人気者！ あらら、うふふ。 子供の未来と笑顔のために今日も頑張ります！）

「え？」

「これ、もう回ってるんですか？」

「あ、はい、ごめんなさい」

「えっと……名前はメリッサ……で、年齢は24歳……です」

「あ……」

「結婚は、していますが、子供はいません」

「志望動機、ですか？」

「……えっと……やっぱり……欲求不満……ですかね♡」

「ふふ……」

「あ、大丈夫です、主人は謝ったら許してくれるタイプの人なので……」

「はい♡」

「あ、はぁ♡♡」

「メリッサが裏切りパコパコしてアヘってるのを見てえ、たくさんの殿方がいっぱいシコって、気持ち良くチンポミルクピュッピュってしてくれたら、すごく嬉しいでえす♡」

……

……

……

「はい、ごめんなさい……」

「二度とさせえん……」

「はあい……」

「失礼します……」

『ガチャ』

『ボタン』

「はあ……こつてり絞られましたわ……」

「こんなに怒られるんじや、何のための告解だかわかったもんじゃない……」

「夫はおろかな私めのことを、お許し下さっているはずなのに、あの、く（そ）……おうん
こおじいさまときたら、頭の固い事ばかり……」

「（はあ……）」

「んっ」

『パンパンっ』

「さてー!!」

「気持ちを切り替えて、今日も、子供たちの明るい笑顔と未来のため……」

「英語を教えつつ、隙あらば、夫の布教をいたしましょう」

「ん……」

『ガチャ』

「はあい♡」

「グッドモーニングエブリワン」

「今日も、元気に、英語を勉強していきましようねえ♡」

「あらあら、元気いいわねえ」

「うふふ……」

「さ、じゃあはじめますよぉ♡」

「まずは、昨日の続きから……」

「リピートアフタミ」

◆オマケのオマケ章 (有名くチューブグループに合格! 配信きり忘れオナニー垂れ流し!)

「はろーえぶりわん!! ホ○ライブ12期生、シスターメリッサですわぁ」

「……」

「ふふ……♡」

「あー、ちょっと待ってくださいね……」

「まだ機材の使い方が、そんなに……」

「うん……これでいいのかな?」

「わーわー……」

「聞こえます?」

「わーわー……」

「あ、大丈夫……」

「ふふ……」

「ん……今日は、なんか、運営から強制のゲーム枠でえ……」

「よくわからないけど、マネちゃんからこれ、渡されたんですよ」

「えっと……「つぼおじ」? かな?」

「……ええええ、え? なに? これ、そんなヤバいんですかあ?」

「シスター、ゲーム苦手だからなあ……」

「大丈夫かな……」

「なんか、もしアレなら、みんなヒントとか下さいね……」

「え……そういうんじゃないの？」

「テクニク的にヤバイやつ？」

「うっわ……それ、どうなんだろう」

「コ○ネ先輩みたいに、長時間できないからなあ、私」

「ま、とりあえず、じゃあ、やってみましょうかあ……」

……

……

……

「ちょっ、ちょっと、これ、な、何これええええ!!」

……

……

……

「きゃー!!」

「ちよっ、無理むり無理むりっ……!!」

……

……

……

「はい、というわけで……」

「……ごめんなさい。 5時間頑張ったんですけど、シスターちょっと力不足でした……」

「ちょっとじゃないかな？ だいぶ力不足というか……」

「んー……また、機会があれば、うん……チャレンジしてみたいと思いますけど……」

「ホントごめんなさい」

「今からちょっと寝ないと、明日も運営からの強制の歌枠あるんで……」

「はい……」

「じゃあ、皆も、おやすみなさい」

「エンディングながしまーす」

「しーゆあげーん。ぐっない！」

……

……

……

「(はああああああああああ……)」

「なに、このクソゲー……」

「なにが、つぽおじだよ……」

「どういうこと？ なんで壺から出ないわけ？」

「なんなの、このく(そ)……おうんこおじさんつ、ホント……ゲームの目的すらよくわか

らないし……」

「なにがしたいのよ」

「てか、マジ、難易度どうなってんのよコレ」

「5時間やって、なんで振り出しに戻んのよ……」

「ゲームとしてあり得ないでしょ……」

「(はあああああああああああ)」

「つかれたあ……」

「5時間、これ、ぶっとおしって……マジ……」

「あああああ　あああ　あ……」

「配信業も楽じゃないですね……」

「あゝ……」

「……」

『コスっ……こすっ……こす……』

「……んっ……」

「んっ……んっ……」

「あっ……あ……あっ……」

「(はあ……はあ……はあ……はあ……はあ……)」

「あんっ……♡」

「あっあっあっあっあっ♡」

「おまんこっ……」

「きもちい、い……」

「ん……ん……」

「ずっと……配信しながら、たまにこすりつけてたからっ……」

「もう……やばあい……♡」

「こすりつけオナニー……きもちい、いっ……♡」

「ずっと……、もうちょっと強く、こすりたかったからっ……♡」

「でもっ……声、でそうになっちゃった、から……我慢、して、て……♡」

「我慢っ……んっ!!……!!」

「しすぎたかりや……あ……♡」

「あっ……あっ……あっ……あっ……あっ……あっ……」

「机としえつくしゅっ……♡」

「きも、ちいい、い……♡」

「あんっ……あっ……あっ……あんっ……っはあああ、あああっっんん♡」

「これだけはっ……やめられないい♡」

「小さいっ……ときかりや……♡　ずっとお♡」

「隙と、カドがあればっ……どこでもっ……しちゃうのっ♡」

「チャンスがあればっ……お外でもっおっ……」

「オナっっちゃうっうっ……」

「カドおお……っ♡」

「カドしゅきいい♡」

「カドと、浮気いい……♡」

「ごめんなしやい……」

「ごめんなしやああああいいいい♡」

「あっ……ぐっ……あっ……んっ……あっ……あっ……あっ……あっ……あっ……」

「きもちいいいいよおおお……♡」

「ひあ、ああああ、あああああっ……♡」

「クリちゃん……しびれちゃうのおっ♡」

「(はっ……はっ……はっ……はっ……はっ……はっ……はっ……)」

「んんんんんん……っ……」

「おっ……っ」

「おっ……おっ……おっ……」

「んお、おっおっ……」

「(……っ……っ……っ……っ……っ……っ……っ……)」

「っ……(か、あ、は♡)」

「……軽イキ、しひやった、あ……」

「あ、あ♡」

「(はあ……はあ……はあ……はあ……はあ……)」

「(ふうふうふうふう)」

「あゝー……」

「駄目、これ……」

「我慢できない……」

「クリ逝きじゃ、足りないわ……」

「(はあ)」

「このままじゃ寝れない……」

「……デイルド持つてこよ……」

「やっぱり結局は、中逝きしないと……」

『ガサ、ガサ……』

『ガサ……』

「ん？」

「あれ？」

「……え？」

「なにこれ……」

「ちようコメント入ってんだけど……」

「あ……」

「これ……配信、もしかして、切れてないのかしら？」

「……」

「あゝ……」

「そう……」

「(ふうふう……)(」

「神よ……愚かなアナタの子であり、妻である私を、どうか許したまえ……そして……」